

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 福岡県砂防協会会長賞

「大切な物を守るため」

福岡県 福岡市立板付中学校 1年 平田 桃圭

2021年8月13日、記録的な大雨となった長崎県雲仙市小浜町では幅50メートルにわたって土砂が崩れて住宅2棟が土砂に押し流された、というニュースを見ました。

毎年よく行く所だったので、このニュースを見たときはとても驚きました。それと同時に、土砂災害などの自然災害いろいろな人の大切な物を一瞬にして奪っていくんだと思いました。

だから私は、そんな自然災害に遭ったとき、自分の身や大切な物を守るために知っておかないといけないことを調べてみました。

一つ目は、『住んでいる場所が土砂災害警戒区域かどうか確認する』という事です。自分の家が土砂災害のおそれのある地区にあるかどうか都道府県や国土交通省砂防部のホームページなどで確認しましょう。

また、ひ難の際にどこにどのように逃げるのか知っておくことも大切です。

二つ目は、『雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意する』という事です。

土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったときに市町村長がひ難指示を発令する際の判断や住民の自主ひ難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。これは、警戒レベル4相当情報で、市町村が警戒レベル4ひ難指示を発表する目安となる情報で、災害の切迫度が高まっていることを示しています。土砂災害警戒情報は気象庁ホームページなどで確認できるほか、テレビやラジオの気象情報でも発表されます。大雨による停電などのいざという時のために携帯ラジオをもっておくといいかもしれません。

三つ目は、『警戒レベル4で全員ひ難する』ということです。

住んでいる地域に土砂災害警戒情報（警戒レベル4相当情報）が発表されたら、自治体からのひ難指示の発令（警戒レベル4）に留意するとともに、ひ難指示が発令されていなくてもキキクル（危険度分布）などを参考にし、家族・親せきや地域内の方々に声をかけあい早めに近くのひ難場所など安全な場所にひ難しましょう。特に、お年寄りや障害のある人は移動時間を考え早めにひ難することが大切です。夜中に大雨が予想される場合には、暗くなる前にひ難することがより安全です。夜間の豪雨時などにはひ難をためらってしまいますが、ふだんからひ難訓練に参加しひ難に慣れていけば、ひ難行動を起こしやすくなります。積極的に市町村などがおこなう土砂災害のひ難訓練に参加していきましょう。

四つ目は、『土砂災害の前兆現象にも注意する』という事です。

土砂災害を発生させる現象には主に「がけ崩れ」「地すべり」「土石流」の3つの種類があり、これらが発生するときには、がけにひび割れができたり、小石がパラパラと落ちてきたりなどの前兆現象が現れていることに気づいたら、周囲の人に声をかけていち早く安全な場所にひ難することが大切です。

今回土砂災害から身を守るポイントを調べてみて、土砂災害にあってしまったときをそうていした順練などに参加して、自分の身は自分で守りたいと思いました。